

【教材を理解する】

主題名：自信をもって正しいことを

「ねらいA 善悪の判断、自律、自由と責任」

① 教材を読む。

教材名：「SL 公園で」（「新しい道徳3」東京書籍）

授業のねらいとする道徳的価値に沿って、教材を読む。

【話し合いの中心の検討】

ねらいとする道徳的価値に迫るための問いか

② 児童に最も考え、話し合わせたい事（場面）とは何かを考える。

SLに登ろうと誘われたが、登らなかった。

しかし、登っている友達に「やめなよ。」と言うことができなかった場面。

正しいと思ったことは自信をもって言えるか、言えないか。

【中心的な発問の検討】

考える必然性や切迫感がある、自由な思考を促し、多様な価値観を引き出す。

③ 話し合いのきっかけを投げかける中心的な発問を考える。

しんごはとめられなかった自分のことをずっと考えていました。

同じようなことがあった時、みんなだったらどうしますか。

④ ③の話し合いにおける児童の反応を予想する。

言う・言わないの二分法にする。

言う ・危ない、けがをする ・登る人が増えないようにしたい ・また登ってしまう

・言わないと後悔する ・壊してしまいそう ・言ったらすっきりする

言わない ・怖い ・何か言われそう ・いじめられるかも ・怒られたらいやだ

・嫌われたくない ・一人じゃ言えない

⑤ 話し合いを深めるための補助発問（問い返し・揺さぶり）等

言う → 嫌われるかもしれないよ。怒られるかも、それでも言うのか

言い返されるかもしれないよ。言わなくても誰か言ってくれるかも。

自分は登ってないから、それでいいのでは。

言わない→友達がけがしちゃうかもしれないよ。もっと登る人が増えるかもしれないよ。

ねらいとする道徳的価値や道徳的事象について多面的・多角的に考えさせる。

## 【前後の発問の検討】

- ⑥ 話合いの前提となる条件、主人公の状況（状況）等を整理する。

悪いことをしている友達に、よくないことだと思っているが言えない。女の子に「みんなをとめられたらよかったのにね。」と言われ、しんごは帰り道にずっと考えている。

- ⑦ 中心的な発問を生かす前後の発問等を検討する。

前 or 後	発問等	児童の反応
前	つよしから誘われたのに、しんごが登ろうとしなかったのはなぜでしょう。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 危ないことはしたくない。</li><li>• 柵があるのだから、入ってはいけない。</li><li>• 後で怒られるからため。</li></ul>

- ⑧ 展開の後半部（後段）で、自分自身を見つめさせる発問（一般化）を検討する。

発問等	児童の反応
しんごくんにどんな言葉をかけますか。自分のことも教えてあげましょう。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 今度は言えるといいね。</li><li>• 私も言えなかった時があるよ。今度言えたらすっきりするかもね。</li></ul>

自己を見つめる発問、自己の生き方を考える発問等。

## 【導入・終末の検討】

- ⑨ 導入と終末の仕方を検討する。

導入	終末
「よくないことをしているのを見たことがありますか。」「その時どうしましたか。」のアンケート結果を提示。自信をもって正しいことを言える子と言えない子がいることを確認。	教師の説話。帰り道に違う道で帰ろうと言われたけど断った。次の日おこられている友達を見て、だめだよって言えばよかったと反省。正しいと思ったことは自信をもって伝えればよかった。

## 【板書の検討】

指導案参照